

## 英語の予約

佐久間 浩彰  
<sakuma@bitcoffee.com>

英語で「予約」は、"reservation" と訳されます。

和英辞典を引くと、他にも "booking", "an appointment", "subscribe" といった単語も載っています。"an appointment" はいわゆるアポイントメント、人などを訪ねるときの約束を取り付けるという意味で使われます。"subscribe" は雑誌などの購読を申し込むという意味で使われます。

JR 東海の東海道新幹線のぞみは、1~3号車が自由席、4~16号車が指定席(うち8~10号車はグリーン車)になっています。指定席の電光表示は、"Reserved" になっています。

全日空(ANA)の予約クラスには、ファーストクラス、ビジネスクラス、エコノミークラスなどがありますが、これらはシステムでは、F, C, Yといった "booking class" で表されます。

座席の予約が重なることを、ダブル・ブッキング、予約を取りすぎる、オーバー・ブッキングといった言葉もあります。

この、"booking" は、本の "book" と同じ意味で、ホテルなどで、お客様から予約があったときに、帳簿に記録をつけることから、帳簿に記録するの意味が転じて、予約するという使い方をしていきます。

しかし、"reservation" と "booking" は厳密にはちょっと違った使い方をします。

まず、席を確保する行為は、"reserve" であり、この時点では、「誰か」が席を確保したに過ぎません。この人が、実際に席に座る段になり、"book" になります。

ホテルや航空機の座席は、"anyone" (誰か) が座るのではなく、具体的な人物がわかりますから、"booking" と使うようです。

一方、新幹線など列車の場合は、無記名による切符の発行しかしませんから、"booked" ほどの厳密な予約ではなく、あくまで、"reserved" な席と考えられます。

診療予約の場合にも、予約枠を確保するだけの予約と、患者のデータベースと連動して、誰が、という情報まで含めた予約が考えられます。

コンピュータは、データベースを取り扱うことが得意なので、コンピュータを使って予約をする、ということ考えると、短絡的に、この患者のデータベースと連動した予約が思い浮かびます。こうした患者のデータベースを、マスターと呼びます。マスターは、誰かが作る必要があります。マスターは、予約をする可能性がある全ての患者のリストなので、一番簡単なのは電子カルテのデータをそのまま使うことが思いつきません。

電子カルテは常に情報が新しくなるため、予約システムはマスターを最新に保つため、常に電子カルテと連動する必要が出てきます。しかし、電子カルテとの接続は、システムごとに仕様が異なるため、簡単ではありません。

簡単に使っていただくことを念頭に考えた「Dr.Net 予約くん」は "booking" ではなく、あえて "reservation" を行うシステムになっています。